

様式(細則 6-2)

令和 6 年 8 月 9 日

浜田市議会議長 様

議員名 沖 田 真 治

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名

会派「山水海」政策提言検討合宿

2. 受講の目的

当会派の今年度活動テーマを話し、市長に提言する内容を検討する場とする。また、市内施設とネット環境を利用して、浜田市内における新たな合宿モデルとする。

[活動テーマ]

①一次産業の振興 ②子育て・教育の場づくり含む ③DX

3. 期間（移動日を含む）

令和 6 年 7 月 26 日（金） ～ 令和 6 年 7 月 27 日（土）

4. 経費

13,432 円

（経費内訳 受講料 4,332 円 、 旅費 9,100 円 ）

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

- ① 自治体DXの推進
- ② 会派協議の熟議
- ③ 弥栄体験村の現状確認、状況調査

6. 研修内容

（詳細は別紙のとおり）



会派「山水海」政策提言検討合宿内容

1. 目的 当会派の今年度活動テーマを話し、市長に提言する内容を検討する場とする。また、市内施設とネット環境を利用して、浜田市内における新たな合宿モデルとする。

[活動テーマ]

①一次産業の振興 ②子育て・教育 の場づくり含む ③DX

2. 日時 令和6年7月26日(金)～27日(土)

13時00分～翌日8時00分

3. 場所 弥栄ふるさと体験村

安城まちづくりセンター

4. 参加者 会派「山水海」永見会長他6名(笹田議長は、他公務のため欠席)

5. 内容

13:00-14:45 基調講演(オンライン)

一般社団法人小さな拠点ネットワーク研究所

代表理事 檜谷 邦茂 氏

演題「自治体 DX について」

～キントーンの活用～

1. 我々議員の DX の認知度を確認

- ・デジタル庁のウェブサイトを見ているか？
- ・リリースされている内容の意味が分かるか？
- ・今後のデジタル社会の流れが想像できるか？
- ・しなければいけないことが想像できるか？
- ・環境整備に見通しをたてることができるか？
- ・周りの仲間に説明することができるか？

2. 自治体 DX の関するキーワード

- ・マイナンバー

→「政府サービス」「市役所サービス」「金融サービス」「メンバーシップサービス」どのサービス・どの ID に対しても、スマホで本人の確認が簡単に、無償で利用できる。

- ・クラウド/ゼロトラスト
→いつでも、どこでもファイルを共有できる。
→新たなセキュリティー対策の考え方→デジタル庁が自治体に「ゼロトラスト」を指示

【先進地】鹿児島県肝付町

- ・ノーコード/ローコード
→業務改善プラットフォーム 「Kintone」
「Kintone」は、開発の知識がなくても、簡単に業務システムの作成が可能なクラウド型業務アプリ開発プラットフォームです。全国で「Kintone」を導入又は興味がある自治体は、709自治体(都道府県含む。)であり、約4割である。

- ・GIGA スクール

3. クラウドを利用したやりとり

【例えば】

小学校・中学校・公民館・教育委員会で、チャット、オンライン会議、ファイル共同編集そして事務アプリが共有できる。

【例えば】事務アプリ

感染症等報告アプリ

- ① 情報入力(養護教諭)
- ② 確認・報告(校長)
- ③ 集計・分析(学校教育)

4. 「Kintone」の活用例

- ・事業者への説明会「運営負担を軽減+混雑を回避」 佐賀県小城市
- ・報告書の作成「話すだけで報告書作成」 徳島県神山町
- ・電子決済「尊重が出張中でも承認」 徳島県昭和村
- ・避難所運営「避難状況が見える化」 大分県別府市
- ・介護認定業務を変革 埼玉県鶴ヶ島市
- ・地区補助金の会計事務負担をクラウドで軽減 **邑南町**
- ・住民による鳥獣被害対策の共有・分析 **益田市**
- ・地域住民による保育所への農産物の出荷管理 **益田市**

・今後「旭町 和田」で導入予定

5. 「Kintone」を活用した将来

→地域運営システム

持続可能な地域運営のための「チームづくり」「仕組みづくり」を支援

15:00-16:10 要望事項について協議

(1) 一次産業の振興

- ・農業：加工産業の振興で、付加価値を高めて販売できようインセンティブを。振興作物・・・
- ・水産業：市内消費あげるための市民啓発の強化。四季の魚を市の取り組みとして設定して、給食や家庭の食卓へあげること为目标設定して取り組む。buy はまだ運動との連携。●円/年。観光振興にもつながる。食育と絡めることも。加工産業の振興で、付加価値を高めて販売できようインセンティブを。地域内消費を高める。

(2) 子育て

- ・自然に触れる時間の提供：体験村の活用
- ・育児休暇の取得の推進（会議所などと連携して、目標設定をして）
 - *サポートの仕方を考える必要あり
- ・小中学校の放課後実態調査を行って実態調査を行う。
- ・社会教育施設の支線体制を考えてほしい（全体統制マネージャーが必要）
- ・児童生徒の輸送手段が家庭によるので、交通弱者への対応を。こどもタクシーの導入。
- ・保育士や学童などの賃金アップ

(3) DX

- ・デジタル推進室の設置で加速化させる（人材の育成）
- ・システムの経費削減を。プラットフォームを作って、様々な地域でアプリを開発・共有。
- ・行革とデジタル化を並行して考え、ノウハウのストックを。

16:15-17:15 市政トピックス研修（意見交換）

「浜田市ふるさと体験村の運営」について

浜田市ふるさと体験村

マネージャー 太田 章彦 様

議員との意見交換

話題提供

1. 体験村復活において、観光地でない弥栄町において、宿泊施設の意義
→太田マネージャー 保育園留学を考えている。ご意見を聴かせてほしい。
2. その他意見
 - ・意思決定の体制(未来創造会議との関係)
 - ・学校との関り
 - ・どぶろくへの取組
 - ・たとえ標高が高くても「冷房」は必要

17:30-18:10 議運協議事項

議題1 政務活動費の見直し(広報費の導入)について

対象とする経費	案分割合・上限額 など
広報紙等 作成費、発送費	経費 1/2 以内、上限なし
HP 等 開設費、管理費	経費 1/2 以内、上限なし

議題2 オンラインで提出された請願・陳情の取扱いについて

【山水海】陳情の具体的な処理方法、陳情者への返し方

(1) 陳情の具体的な処理方法

- ・議長が受け付けた陳情を適宜、議長・副議長、議運委員長・副委員長によって各委員会に振り分け送付する。(併せて全議員に送付する。)なお、委員会に振り分ける際には、基準を適用せず、単純に振り分ける。
- ・当該振り分けられた陳情を適宜、委員会開催時に、委員会で議題として取り上げ、調査・研究するか否かを判断する。(判断する基準は特に設けない。)

(2) 陳情者への返し方

- ・各委員会での審議の内容を伝える。例えば「今後の参考とさせていただきます。」「今後、所管事務調査として対応させていただきます。」等

議題3 令和7年度議員改選に向けた議員定数について

人数	理由 など
22名	<ul style="list-style-type: none">・ 常任委員会の構成 7名×3委員会＋議長・ 現定数から間もなく、改選前より増して広聴機能も充実してきている。また、議会改革も進めて、評価もされている。このような中、定数については、もう一期様子を見るべき。
19名	<ul style="list-style-type: none">・ 議題3の[参考]のとおり、特に問題なければ、6名×3常任委員会×議長で良いのでは。・ 人口減少が進む中、定数について考える必要がある。

18:30- 夕食・意見交換

就寝

7:00-8:00 朝食

解散

所感

本市において「まちづくり総合交付金」は各推進委員会から膨大な報告書・計画書が提出され担当課の業務量も膨大であることから、自治体DX化において「キントーン」の活用は非常に興味深いものであった。同様に推進委員会の事務局機能においてもリアルタイムで報告書の管理、チェックが可能である点において双方にメリットがあり導入すべきであると感じた。近隣の自治体でも導入を検討していることから、導入に至った経緯などの視察も行い、先般視察した真庭市のDXの事例も合わせ、今後研究し提言につなげたいと思う。

会派間で提言内容や議会運営委員会での協議事項も時間を多くとりながら議論が深まったように思う。

体験村の聞き取り、宿泊してみて感じたことは、施設にエアコンが整備されていないことは大きな課題であると思う。

また、弥栄地域の良い素材が十分に生かされていないように感じた。宿泊を通して思ったことは、運営主体である「弥栄未来創造会議」の意思が見えてこない。とりあえず無難に運営をしていくのではなく、自分たちのコンセプトを前面に出していく必要があるように思えた。